

令和元年度 第2回熊本市小中一貫教育検討委員会議事録

日時：令和元年10月2日（水）9：45～11：45

場所：熊本市立富合中学校

○議事録

- 1 開会
- 2 教育委員会挨拶
- 3 議事 「熊本市小中一貫教育の在り方について」

古賀座長	第2回熊本市小中一貫教育検討委員会を始める。最初に、今年度から小中一貫校としてスタートした富合中学校から、今年度の取組の紹介をお願いします。
小田委員	先ほど数学の授業を見ていただいたが、今年度は新たな取組として、小学校から中学校への乗り入れ授業を実施している。また、音楽の授業では、中学校の音楽担当教員が小中学校両方の授業を担当しているが、先ほどの授業視察後半に見ていただいた授業が小学校6年時から継続して授業を行っている音楽の授業である。 （富合校区の今年度の取組に関する説明 省略）
荒木委員	これまでの取組で一番良かったと思うことをあげてほしい。
富合小学校長	半年前に小学校を卒業した児童が、中学校の半年でこんなに顔が変わるんだと思った。これまでの取組の中では、児童生徒の交流が最も大事だと思っている。また、児童生徒は、先生方の仲の良さをとても好意的に感じているので、職員間もできるだけ交流していきたい。今後は、時間的、距離的な課題があるが、そこをクリアしていけるように今後も考えていきたい。
小田委員	児童生徒の交流は和やかでとてもよい。小学生が安心して中学校に入学できていると思う。また、学習会等の取組もとても効果があると思っている。今年度は職員に兼務発令がでているので、その分職員一人一人の意識が高くなり、いろんな交流ができています。
古賀座長	次に、指導課からの説明をお願いします。
事務局	事務局から、「第1回検討委員会の確認事項」と「協議内容（案）」の2点について説明する。1点目の「第1回検討委員会の確認事項」については、第1回検討委員会議事録を今月中に熊本市ホームページの方にアップする。主な内容については、「議論のまとめ」として整理しているので、PTA協議会や自主校長会等で内容を報道されるときには、ぜひ活用してほしい。2点目の「協議内容（案）」は、小中一貫校の設置、取組の指標及び教科担任制について意見をいただきたい。まず、「小中一貫校の設置」については、来年度から小中一貫校は4校区に絞り、ABCの各グループからモデル地域を1校区ずつ指定して、特にBCグループの取組を推進したい。2つ目の「小中一貫校の取組の指標」については、今後、小中一貫校の取組の成果と課題を整理する際に成果指標の設定は必要である。例えば、学校の課題を数値化して課題を改善できているかを判断できるようにしたり、質問紙調査（「学校へ行くのが好きか」「中学校へ行くことが楽しみか」など）を継続実施してその推移を見ていくことも考えられる。3つ目の「小学校高学年の一部教科担任制」の取組については、今年度は各学校で試験的に一部教科担任制に取り組んでいただいているところだが、

	来年度の小中一貫校には加配教員を利用した一部教科担任制に取り組んでいた だきたいと考えている。この3点の協議内容についてご意見をいただきたい。
古賀座長	小中一貫校を4つの校区に絞って取組を充実させること、小中一貫校の指標 づくりに取り組むこと、小学校高学年の教科担任制の実施等について、質問・ 意見があるか。
荒木委員	少人数指導の加配教員が、他の教科の専科をすることは、来年度から可能に なるのか。
事務局	少人数加配の縛りがなく活用できるように、調整をしているところである。
中嶋委員	それは全学校で可能なのか。
事務局	まずは、小中一貫校からの実施を考えている。ただ、河内校区や芳野校区の ように単学級の場合は、教科担任制のメリットが少ないため、対象校をどうす るかは現在検討中である。
西本委員	算数T・Tがなくなることのデメリットはないのか。
事務局	当然あると思う。少人数指導には少人数のよさがある。学校の判断で選択で けるようにしたい。ただ、教科担任制には、学級担任の負担を軽減し、教材研 究をじっくりできるよさがある。来年度、小中一貫校で取り組んでいただき、 成果と課題を検証していきたい。
上妻委員	小学校6年の算数では、個人差がかなりある。専科教員の授業になった場合 には、これまでティームティーチングで支援していた部分を別の方法で何か工 夫しないといけない。中学校に入学したときに、個人差がさらに大きくなるの ではないか。
事務局	そこは丁寧に検討していく必要がある。先ほどあったように専科教員が1つ の教科だけでなく、2つの教科を担当することも可能になるので、学校の状況 に応じてどのように活用するかについてご検討いただきたい。必ず少人数加配 を専科教員として利用するというわけではない。
西本委員	Aグループの実践のエッセンスを、Bグループにも広げていくということは、 どのような形で進めているのか。
事務局	幼小中連携教育担当者会（年2回）で先進校の取組を紹介したり、中学校区 ごとの「幼小中連携の日」を通して熊本市全体の取組へとつなげている。今年 度の小中一貫校の取組の成果と課題についても、そのエッセンスを市全体で共 有できるようにしたい。
古賀座長	富合校区の教育実践は平成16年に始まり、15年間継続して取組まれている。 これまでは、富合校区の先生方が他校に行ったときに、それまでの実践を 生かすことが難しい状況も見られた。今回の提案では、4つの先進校での経験 を他校でも生かせるような市全体の枠組みを作っていくということだと思う。 エッセンスを広めることと、一人一人の先生方の力量を高めることにつながる と思う。

橋爪委員	先進的な取組がAグループだからできたということにならないように、今後はB・Cグループの学校をモデル校に指定することを検討してはどうか。B・Cグループの学校の先生方が、Aグループのような1小1中ではないので実践できないと思わないようにしてほしい。 また、本日の授業については、小学校からの乗り入れ授業の効果はとても大きいと感じた。導入時に小学校から引き継いで中学校の授業に入っていくのは効果的だと思う。
富合小学校長	乗り入れ授業を継続して取り組むためにも、小中一貫校には、小学校と中学校の両方の経験がある先生方を配置してほしい。
荒木委員	向山校区では、小学校と中学校の教員が一緒に指導案を書くことを通して、意識が変わってきた。打合せ時間の確保等の課題はあるが、今年度のように兼務発令があると富合校区のような取組ができると思う。
古賀座長	今日3つの提案があったが、評価指標と教科担任制については、事務局の方でさらに練り上げてほしい。また、小中一貫校の設置については、4校区に絞って取り組む方向での提案だったが、本会としては承認するような位置づけではないが、そのことについての反対意見はなかった。3つの提案の方向でお願いしたい。

4 事務連絡

5 閉会